

「“靈”の執り成し」

2018年09月27日

ローマの信徒への手紙 8章 26節～30節 同様に、“靈”も弱いわたしたちを助けてくださいます。わたしたちはどう祈るべきかを知りませんが、“靈”自らが、言葉に表せないうめきをもって執り成してくださるからです。人の心を見抜く方は、“靈”の思いが何であるかを知っておられます。“靈”は、神の御心に従って、聖なる者たちのために執り成してくださるからです。神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。神は前もって知っておられた者たちを、御子の姿に似たものにしようとあらかじめ定められました。それは、御子が多くの兄弟の中で長子となられるためです。神はあらかじめ定められた者たちを召し出し、召し出した者たちを義とし、義とされた者たちに栄光をお与えになったのです。

パウロは、被造物全てが虚無に服し、苦しみ、呻いているが、“靈”の初穂をいただいている者は神の子とされ、体の贖われることを待ち望むことによって、救われていると語った。「わたしたちは、目に見えないものを望んでいるなら、忍耐して待ち望むのです。」現在は苦悩に満ちているが、忍耐して、まだ見ていない終末時の全き救いを待ち望んで、生きる。この希望において救われている。

パウロは続いて、全き救いを待ち望む希望において救われるということは、“靈”が確証していると語る。「同様に、“靈”も弱いわたしたちを助けてくださいます。わたしたちはどう祈るべきかを知りませんが、“靈”自らが、言葉に表せないうめきをもって執り成してくださるからです。」“靈”は、人間に神の命を与えるために、神と人を結びつける。パウロは、被造物すべてが虚無に服していると人間の苦悩を語った。苦悩の中では、祈るべき言葉を失うが、“靈”自らが言葉に表せない呻きをもって神に執り成してくださる。靈は神の御心に従って、聖なる信仰者たちのために執り成してくださる。祈ることができず、神から最も遠いところにいようとも、“靈”において、神に執り成され、神と共にある。人の思いを見抜かれる神は、“靈”の思いを知っておられる。「神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。」「万事が益となる」とは、パウロがⅡコリント書1章19節で、「あなたがたの間で宣べ伝えた神の子イエス・キリストは、「然り」と同時に「否」となったような方ではありません。この方においては「然り」だけが実現したのです」と書いているように、神の「然り」が実現しているということである。神はイエス・キリストにおいて、人間に万事が益になるように、絶対的な「然り」で、肯定してくださっている。これが、パウロの語る福音である。その喜びは、「神は前もって知っておられた者たちを、御子の姿に似たものにしようとあらかじめ定められました。それは、御子が多くの兄弟の中で長子となられるためです」と記した。御子イエスが長子であり、私たちは、御子イエスに似た姿の弟妹にしようとあらかじめ定められている。そして、言葉を替えて、同じ喜びを繰り返している「神はあらかじめ定められた者たちを召し出し、召し出した者たちを義とし、義とされた者たちに栄光をお与えになったのです。」義とされた者に栄光を与える。栄光とは、御子イエスと同じ姿に変えられることで、この望みが、“靈”の執り成しによって、確かであると述べているのである。